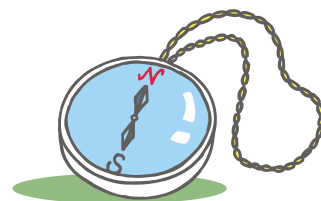


羅 針 盤

第 **15** 号

令和8年9月14日（月）



◆ 失敗の捉え方

生徒の皆さんにも、学校生活や日常生活を通じて、思い通りにいかなかったり、あるいは、失敗したと感じたりする場面が少なからずあるかと思います。そして、そのことをマイナスの体験と考えてしまう人が大半ではないかと思いますが、決してそうではありません。人間は誰しもが、失敗を繰り返しはするけれども、そのことから学び、成長するものであると考えるべきです。失敗は「才能の不足」や「マイナス」ではなく、成長や成功に不可欠な途中経過のできごととして捉えることが重要なことであるからです。また、事実を真正面から受け入れて、冷静に原因を分析して改善策を講じることで、失敗を次の挑戦への強力な武器に変えることができる考えるからです。では、失敗したことをポジティブに捉えることができる自己肯定感の高い人は、どのように失敗を捉えているかという、まずは失敗から目を背けることなく、「何が起きたのか」といったことを客観的な事実として認識することができるということです。失敗したことが全面的に自分自身を否定されたというわけではないと考えることができることがとても大切なことです。そして、「なぜ失敗したのか」「自分に足りなかった要素は何か」といった原因を冷静に分析することができることが大事なことになります。他人や環境のせいにするのではなく、「自分自身が実行することができること（準備、知識、確認作業など）」に焦点化をして原因を探る必要があります。そして、「次の機会には、どうすればうまくいくのか」という具体的な改善策を立てて、「失敗」を「大きな学び」へと変えることが何よりも大事なことです。失敗したときに、自分の行動を振り返り反省することは必要なことではあると思いますが、必要以上に落ち込んでしまったり、あるいは、失敗したことと向き合うことなく逃げてしまったりすることは、避けなければならないことだと思います。自分自身だけでなく、周りにも良い影響を与えることは決してなく、失敗を正面から受け止めずに逃げてしまったりは、その経験から学ぶ機会を自ら失っている状態に向かっていると言わざるを得ません。失敗を恐れてしまって、新しい挑戦をしないということ、それは確かに失敗はしないけれども、全く何の成長もない状態が続くということです。つまり、自ら「自分の成長を止めてしまう」ということです。成長できることを楽しむことができることが、人として成長していくためには何よりも必要なことのはずです。パナソニックの創業者として有名な経営者である松下幸之助は、「失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければ、それは成功になる。」という言葉を残しています。失敗やつまずきは次へのヒントとなるという



こと、つまりは、成長につながっているチャンスであるということです。なぜうまくいかなかったのか、次はどうすれば良いのか、結果だけでなくその過程も含めて考えることが、次につながる大切な経験となります。そして何よりも、失敗は挑戦した証でもあります。何かに挑戦し続けた自分を認めつつ、前向きに分析・改善しようとする姿勢を大切にすることこそが、「失敗は成長の糧である」と置き換えることができ、自分自身にとって必要な経験となっていくものです。「失敗」を「チャンス」とであると捉えて、チャレンジし続けることができる人であってほしいと願っています。